

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に職員の見えるところに掲示しています。また理念に基づいた介護ケアを実践しています	開設時に管理者と職員が話し合い作成し、玄関、事務室、休憩室にそれぞれ掲示し、日々の介護に実践反映するように勤めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、回覧板や広報紙配りなど日常的に交流している。	地域の町内会に加入しています。本年は班長として広報誌の配布や回覧板を渡すなどの活動を通し日常的な交流があります。	地域住民との交流は少しずつ深まってきてはいますが更に、事業所の行事等に参加を呼び掛ける等工夫し理解してもらえるような取り組みを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の研修会等に参加している。問い合わせ等あった際にはお伝えしているが積極的ではない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況や利用者様の生活状況等についての報告、意見交換を行い外部評価での検討課題を議題にあげサービスの向上、質の向上についてもアドバイスも頂く様にしていきたい。	数回計画はしましたが、開催はされていません。	運営推進会議の開催により当事業所のケアサービスの質的向上が期待できますので、利用者、家族、包括センター、地域住民等の参加を要請し早期に開催することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域のケア会議に参加している。日常的に行政と連絡を取り、サービスの質向上に努めている	地域包括センターのケア会議には積極的に参加して担当者との情報交換に努め、日々実践に活かしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーを設置し一人での外出を防止している為、施錠はしていない。身体拘束はしていないが学習の機会があれば理解を深めて行きたい。	身体拘束についての小冊子を配布したり職員会議の中で身体拘束をしないケアの重要性について話し合いを持ち実践に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会や外部研修の機会が少ないために知識は不足していますが入居者様との会話や関わりの中でも細心の注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見制度について研修を受けている。現在一名の方が利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には今後起こり得るリスクについても説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居の際には苦情処理機関の説明を行っている。 玄関にご意見箱の設置し、ケアプランの説明時に意見や希望を聞いている。	玄関入り口には意見箱が設置され、利用者、家族の苦情意見を求めるようにしています。また、ホーム便りの定期的な発行を計画しています。	家族との連絡はケアプランのモニタリングの時にしていますが、日々の様子を伝える工夫をして更に連携を密にされることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場で聞き、出された意見や提案事項は管理者を通じて代表者へ報告している。	職員会議、ケア会議を同時に開催しシステムの改革やケアの向上に努めています。	管理者や職員の意見がより良く代表者や運営に反映されるように会議のあり方や報告の仕方の工夫を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って仕事ができるように勤務状態により昇格している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内内容を回覧し、積極的な参加を促がす他、全体会議での研修報告により質の向上に努めている。 消防署の救命講習、消防署員に来て頂き救助方法を学んだ。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、近隣市町村の同業者との勉強会に参加。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には少しでも不安が無くなるように、話しやすい雰囲気です事前面談を行い、入居後は安心して頂ける様な声かけに努めている。必要な方には体験入居も行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談は事務所でゆっくり話を伺い、入居後の面会の際には、利用者の近況報告を行いながら、遠慮なく話していただける雰囲気になるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援を見極め権利擁護事業の支えあい、受診時の移送サービス、訪問看護のサービス利用等の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で入居者様からスタッフがアドバイス頂く事もあり家族の様な関係になるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際や遠方の方へは電話、お手紙でスナップ写真を同封する等し近況を伝えている。又、洗濯物や受診の際の付き添いなど共に協力し、支えて行く関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達との関係も継続できるように支援している。	利用者の友人の当事業所への訪問が月に数回あり、和やかな生活を送るきっかけになる等、馴染みの関係継続の支援に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングに利用者が集まり、ゲーム等を通じ関係を深めている。 お互いに声掛け合い、できない事は助け合い、心配事や不安を打ち開けたり、アドバイスされたりと支え合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も関係を必要とする利用者との関係を維持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフは日常的に行動パターンやご本人の思いの把握に努めている。	利用者との日常の会話や表情の中から本人の希望や要望を把握し日々のサービスに活かすよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のインテークやアセスメントで把握している。 入居後も、ご本人や家族、知人にその都度生活歴など聞きながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の経過が生活記録やバイタル表、排泄表等で把握されている。 変化があった時には個別申し送り簿で周知される		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の意向やご家族の意見も参考にし、職員間で話し合い作成している	介護日誌に日々のケア等を記入し3ヶ月に一度の見直しに反映させています。見直しは会議の中で職員全員で話し合わせ、利用者、家族の意見を取り入れ現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきを個別送りに記入し情報を共有できるようになっている。把握された情報により、介護計画の検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事に関しては体調不良時や嫌いな物がある場合には状態に合わせて別メニューお出しする等柔軟に対応している。 入居者様やご家族の希望により通院の送迎・受診介助、その他買い物等も柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪看・保健所の口腔ケア指導・消防署による避難訓練等、受け、安全に生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する病院に受診できるようにしている。受診の際の本人の状態や血圧など報告し、受診後の医師からの指示が得られている。	以前からのかかりつけ医との関係を重視するよう取り組んでいます。受診の際は同行し、かかりつけ医に日常の状態を伝えるようにしています。また、介護職員で準看護師資格のある職員により緊急時には対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	半数の方が個人契約で週1回の精神訪問看護を利用し普段の様子や体調の変化を報告し、健康管理や医療面での相談・対応を行っている。8月からは訪問看護の契約により医療機関との連携も密にとれる様関係を作りたい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への介護方法に関する情報を医療機関に提供し、家族とも情報交換しながら退院支援に向けて連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向等は状態の変化と共に変わっていくので早い段階から具体的な方針は定まらず、その都度確認し情報を共有している。	利用契約時に、将来的には、方針を決める方向にはあるが現状はまだ定まっていない旨などを伝えていきます。運営会社と重度化についての方針を協議しています。	重度化や終末期のあり方について運営会社、管理者、職員、かかりつけ医、協力医と早急に協議をし方針を決め利用者、家族へ説明されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	蘇生術・AEDの講習に参加し緊急時に対応できるようにし緊急対応のマニュアルを作成しいつでも見られるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て避難訓練・避難経路の確認、消火器の使い方、避難方法などの訓練を入居者様を交え行っている。近隣の方には参加を呼び掛けている。	年2回消防署の協力のもとに避難訓練を実施しています。本年6月には夜間想定訓練も行っています。また、会議の中で訓練の検証を行っており、災害対策の大切さを管理者、職員全員が認識しています。	年2回の防災訓練を実施していますが、消防署の他、利用者と、管理者、職員のみで行われており地域の協力が得られていません。地域の協力体制構築を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普通の会話の中でも不快にならぬような言葉かけや対応に努めている。	誘導、声かけ時に利用者の尊厳を傷つけないよう最大の注意を払うように会議の中で話し合われています。新規職員が3名おり管理者の指導のもと利用者の尊厳に配慮した介護実践に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に合わせた声掛け、意志表示の困難な方には、表情を読み取り問いかける。過ごす時間を通して決める場面を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の状態やペースに合わせ無理のない様に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近所の床屋に月一度来て頂いている。女性でパーマを希望される方でご家族の都合がつかない場合は近隣の美容室へ送迎している。衣類の汚れなどスタッフが気づいて行くよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の力に合わせて出来る事をしている。(歩行安定されている方は下膳、テーブル拭き、おしぼりたたみ、配布)	利用者の好みを把握し楽しくなるような献立を作る工夫をしています。また、バラエティに富んだ料理を提供できるように食材は一部外注をしています。食事時には利用者の協力があります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合わせた量を盛り付け、状態によりミキサー食、刻み食にし、個々に合わせた形状で提供している。 水分・食事摂取量チェック表で把握ができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力医療歯科・保健所による口腔ケア指導も受け、起床後、毎食後の口腔ケア、口腔内を観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導している。 昼夜ではオムツやパッド等の使用量を減らすなどの調整している。	排泄チェック表を活用し利用者個々の排泄パターンの把握に努めています。トイレへの誘導はさりげない声かけをしプライバシーに配慮しています。オムツ、パットの使用は極力減らすように取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には起床時に冷水や牛乳、ヨーグルト等飲んで頂き、トイレにてウォッシュレット刺激し、腹部マッサージ、軽い運動も動めているが下剤を服用している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に合わせて、ゆったりと入浴して頂いている。時々拒否される方は、無理強いせず、気分の良い時に安心して入浴できる様に努めている。	利用者の希望にあわせた入浴に努めています。一月ごとの入浴チェック表で入浴状態を把握し、拒否される利用者には清拭や足浴で気分を変え入浴につなげる努力をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は戸外で陽に当たったり・体操・ゲーム等に参加してもらい活動の時間をもち、就寝前にはホットミルクを飲んで頂くなど安眠できるように努めている。 睡眠パターンチェックし活用していきたい。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の副作用、用法が書かれた処方箋綴りは職員が見られる所に保管把握し、症状変化に気づいて行く様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物干し、たたみ、おしぼりたたみ、ゴミ集め、花・野菜の苗植え、毎日の水やり等 力に合わせて楽しみながら行えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様が季節感を肌で感じてもらえるように年に数回外出の機会を設けている。 又、ご本人の希望を把握しご家族に協力も得ながら外出できるように支援している。	年間行事になっている花見、秋には菊祭りとして北見の季節の催しに外出支援をしています。また、近隣に桜の咲く公園が数多くあり季節を味わえる状況にあります。	日常的に外出支援の出来る体制作りを確立することを期待します。外出の足の確保、介助スタッフの体制作り等支援体制の整備を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の力に応じてお金を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く方はいつでも書けるように配慮し、投函はスタッフがお手伝いしている。 ご本人が電話を希望された際には見守りの中連絡が取れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるように玄関先にはプランター、リビングには季節の草花を飾る等し、音、光、色、広さ、温度などは日々調整に努めている。	共用の空間はゆったりと造られています。居間には季節の花が飾られ心を和ませています。温度、湿度の調節にも注意を払い、快適に保たれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で寛いだり、共有スペースにはソファや食卓椅子、2階ベランダ前にソファを配置しその時々で落ち着ける場所がある。安全や安心感を確保するために、物の配置や入居者様の座席等に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物を持参してもらい、ご家族の写真や飾る等、居心地良く過ごせる工夫をしている。	利用者の居室には家族の写真や置物などの馴染みの物が飾られ、それぞれの利用者が自分らしく過ごせるような工夫がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりを付け一人でも安全に歩けるようにしている。 居室には表札を付け混乱せずに過ごせるようにしている。洗濯や干す時等出来る方には安全に行えるように工夫している。		